

中 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

外国語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の内容	3
III	研究構想図	10
IV	検証授業	11
V	研究の成果と課題	14

研究主題

「話すこと」の活動を通して「書くこと」の力を高める指導の工夫 ～自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現できる生徒の育成を目指して～

I 研究主題設定の理由

「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告」(文部科学省 平成 29 年 3 月)では、生徒の英語力について、4 技能、特に発信能力(話す・書く)に課題があることが指摘されている。この発信能力(話す・書く)のうち、「話すこと」については、これまでの東京都教育研究員中学校外国語部会の研究や東京都教育委員会主催の「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」等を通じて、生徒の「話すこと」の力を高めるための授業改善の方策が示されてきた。一方で、「書くこと」については下記のような課題があるものの「話すこと」に比べて実践事例の提示が少ない。授業改善の方策を研究するなど、課題解決に向けた実践を行っていくことが必要である。

「書くこと」におけるこれまでの課題

(1) 既習事項を用いて正確に書くこと

「平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省 令和元年 7 月)(以下、「調査報告書」と表記。)によると、「英文を正確に書く力」をみる問題(計 5 問)の東京都[公立]の平均正答率は 49.2%(全国[公立]は 45.3%)であり、約半数の生徒が既習事項を用いて正確に書くことができていない状況が見られる。

(2) 発信する内容をもつこと

本部会の部員の所属校においては、あるテーマ(例えば「先週のできごと」)について生徒が複数の英文を書く際、関連のない英文(I played soccer. I went to Shinjuku. I studied math.など)を列挙してしまうなど、テーマに沿って一貫性のある発信する内容をもてない状況が見られる。また、「調査報告書」の「まとまりのある文章を書く」問題においても、問題で求められている必要な語数を満たしていない解答や日本語での解答、無解答などの合計が 50.4%である。

(3) 「まとまりのある文章」を書くこと

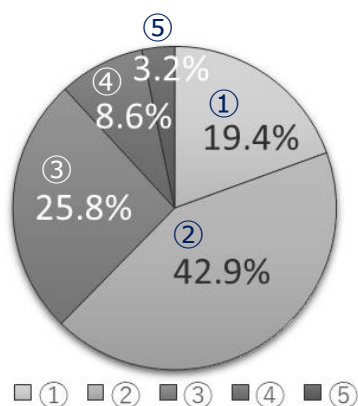
「調査報告書」の「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる」をみる問題においては、東京都[公立]の正答率は 2.3%(全国[公立]は 1.8%)であり、ほとんどの生徒が「まとまりのある文章を書く」ことができていない状況が見られる。

加えて、本部会の部員の所属校において、研究による取組を実施する前(授業実践前)に生徒の意識調査を実施したところ、上記(1)から(3)までの課題が同様に見られることが分かった。結果は次ページの【図表 1】のとおりである。

英作文意識調査における生徒の回答状況

※ 第1学年では「自己紹介」、第2学年では「週末のできごと」をテーマに「3文以上の英文を書く」課題に取り組みませた際の、生徒の意識を調査した。

第1回調査（授業実践前）
（対象生徒 895名）



<意識調査の回答の選択肢>

- ① 3文以上で書くことができ、さらに文と文の順序やつながりを意識して書くことができた。
- ② 3文以上で書くことができたが、文と文の順序やつながりは意識できなかった。
- ③ 3文程度の内容は思いついたが、1文または2文しか書くことができなかった。
- ④ 書く内容は思いついたが、1文も書くことができなかった。
- ⑤ 書く内容が思いつかなかったため、1文も書くことができなかった。

【図表1】英作文意識調査における生徒の回答状況（対象895名）

<調査結果から明らかになった生徒の「書くこと」における課題>

(1) 既習事項を用いて正確に書くこと

3文以上の英文を書くことができなかったと回答した生徒（③+④+⑤）の割合が37.6%であり、既習事項を用いて英文を書けていないと意識している状況が見られた。

(2) 発信する内容をもつこと

書く内容が思いつかなかったと回答した生徒（⑤）だけでなく、書く内容を思いついていると回答した生徒（①+②+③+④）についても、例えば「週末のできごと」について生徒が実際に書いた英文には、「I play tennis. I went shopping. I studied English.」のように、関連のない英文を列挙しているものがあつた。テーマに沿って一貫性のある発信する内容をもてていない状況が見られた。

(3) 「まとまりのある文章」を書くこと

3文以上書くことができたが、文と文の順序やつながりを意識できなかった生徒（②）の割合が42.9%であり、「まとまりのある文章」を十分に書けていないと意識している状況が見られた。

そこで本研究では、「既習事項を活用して、自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現することのできる生徒」の育成を目指し、研究主題を『話すこと』の活動を通して『書くこと』の力を高める指導の工夫と設定した。研究協議では、中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）（以下、「解説外国語編」と表記。）や「調査報告書」等の内容についての調査、分析を行うことを通じて指導方法を検討した。また、本部会の部員の所属校の生徒の実態から授業改善の方策を検討し、「書くこと」における課題を解決していくこととした。

本研究による取組を実施することで「書くこと」における課題の解決を図ることができ

ると考え、研究の仮説を以下のように設定した。

[研究の仮説]

「話すこと」の活動を通じて生徒に発信する内容をもたせるとともに、「書くこと」の活動を通じて「まとまりのある文章」を書くための文章構成を指導すれば、「既習事項を活用して、自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現することのできる生徒」を育成することができるだろう。

II 研究の内容

新しい中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）（以下、「新学習指導要領」と表記。）外国語の「書くこと」の目標として、「ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。」だけでなく、「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。」、さらに「ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。」が求められている。本研究においては、本部会の部員の所属校の実態を踏まえ、これらの目標のうち「ア」及び「イ」について研究を深めることにした。

「まとまりのある文章」とは、「解説外国語編」によると、「文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章」のことである。そこで、課題の解決を図るための具体的な授業実践方法を定めるに当たり、まず、本研究で目指す「まとまりのある文章」について検討した。「解説外国語編」では「導入－本論－結論」や「主題－根拠や具体－言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら全体として一貫性のある文章を書くことが、「まとまりのある文章」を書く際には重要であるとしている。しかし、前述のように関連のない英文を列挙する生徒が見られる状況を踏まえると、「導入－本論－結論」や「主題－根拠や具体－言い換えや要約」の各要素が複数の英文で構成されている（例えば各要素 3 文ずつ、合計 9 文程度の）「まとまりのある文章」を書くことには段階を踏むことが大切であると考へた。そこで本研究では、内容として相互に関連のない英文を列挙するような文章を書くのではなく、まずは、テーマに沿って「全体として一貫性のある 3 文以上の英文」（例えば、*I went to an amusement park with my friends last weekend. We rode a roller coaster many times. I enjoyed my weekend very much.* など）を書くことができるようになることが、「まとまりのある文章」を書くことにつながると考え、授業実践内容を定めることとした。

1 授業実践内容

(1) 「Q&A 活動」（「話すこと」の取組）

本研究では、「書くこと」における課題「(1)既習事項を用いて正確に書くこと」及び「(2)発信する内容をもつこと」を解決するため、次のように考え、「話すこと」の取組として「Q&A 活動」を行った。

- 「書くこと」における課題(1)の解決に向けて
ワークシートに質問と応答の一覧を記載するなどして生徒にモデルとなる英文を繰り返しインプットするとともに、教師が「Q&A 活動」後のフィードバックを工夫することで、生徒が表現する英文の正確さを高めることができる。
- 「書くこと」における課題(2)の解決に向けて
様々な英文（質問と応答）を生徒にモデルとして示したり、それらの英文を用いた生徒同士のやり取りを通じてお互いの考えに触れさせたりすることで、テーマに関する考えを広げさせ、生徒に発信する内容（書きたい内容）をもたせることができる。

ア 「Q&A 活動」の手順

- ① 教師がワークシート(質問と応答の一覧)にある英文を学級全体で音読しながら、意味を確認する。
- ② 生徒個人で質問と応答を音読させ、内容について自分の考えをもたせる。
- ③ ペアを指定し、最初に質問する生徒 (S1) と応答する生徒 (S2) を決める。
(この時、毎回同じ相手とのやり取りにならないよう、ペアを指定する際は、座席の縦・横・斜めなど、組み方に変化をもたせる。)
- ④ S1 に質問、S2 に応答をさせる。
(生徒の実態に応じて1分間、2分間等時間を指定する。)
- ⑤ ④と役割を交代し、S2 に質問、S1 に応答をさせる。
- ⑥ 教師が数名の生徒に対して、④⑤で取り組んだ質問を用いて質問する。生徒が質問の内容を理解し、応答できているかを確認する。
- ⑦ 後述の「英作文シート」(P7参照)に、「Q&A 活動」で話した英文等を記入させ、「書くこと」の活動で使用できる表現、アイデア等を蓄えさせる。

イ 「Q&A 活動」で生徒に示す様々な表現（質問と応答）の工夫

「Q&A 活動」で生徒に示す様々な表現（質問と応答）は、生徒がテーマに沿って一貫した内容を発信するための材料となるよう、質問と応答の例として、Q1～Q6には全てテーマに関連した英文を示し、生徒が「書くこと」の活動で書く際にも活用できるようにした。具体的な質問と応答の例は、以下の【図表2】のとおりである。

学年	テーマ ※()内は 扱っている主 な文法事項	No.	Questions ※下線部は生徒自身が考えて質問する部分。また、生徒の習熟の程度に応じて、()内の質問をすることもできる。	Answers ※下線部は生徒自身が考えて答える部分
第1学年	自己紹介 (be動詞) (一般動詞)	Q1	What's your name?	My name is ○○.
		Q2	Do you like <u>music</u> ? (What do you like?)	Yes, I do. / No, I don't. (I like <u>animals</u> .)
		Q3	Do you play <u>soccer</u> ? (What sport do you play?)	Yes, I do. / No, I don't. (I play <u>tennis</u> .)
		Q4	Are you from Tokyo? (Where are you from?)	Yes, I am. / No, I'm not. (I am from <u>Tochigi</u> .)
		Q5	Do you like <u>Japanese food</u> ? (What <u>food</u> do you like?)	Yes, I do. / No, I don't. (I like <u>Italian food</u> .)
		Q6	Do you like <u>English</u> ? (What <u>subject</u> do you like?)	Yes, I do. / No, I don't. (I like <u>math</u> .)

第2学年	将来の夢 (to不定詞)	Q1	What's your favorite subject?	It's <u>math</u> . I like <u>numbers</u> .
		Q2	Do you like to <u>use the Internet</u> in your free time? (What do you like to do in your free time?)	Yes, I do. / No, I don't. (I like to <u>read comics</u> .)
		Q3	Are you interested in <u>computers</u> ? (What are you interested in?)	Yes, I am. / No, I'm not. (I'm interested in <u>sports</u> .)
		Q4	Are you good at <u>using computers</u> ? (What are you good at?)	Yes, I am. / No, I'm not. (I'm good at <u>drawing pictures</u> .)
		Q5	Do you want to be a <u>computer programmer</u> ? (What do you want to be in the future?)	Yes, I do. / No, I don't. (I want to be a <u>game creator</u> .)
		Q6	What do you want to do in the future?	I want to travel around the world.
第3学年	私の人生 (既習事項)	Q1	When is your birthday?	It's <u>December 0th, 2004</u> .
		Q2	Where were you born?	I was born in <u>Shinjuku, Tokyo</u> .
		Q3	What was your favorite thing when you were in elementary school?	I liked <u>○○</u> very much. My favorite <u>character</u> was <u>○○</u> .
		Q4	What is your best memory in your junior high school life?	It's <u>the school trip</u> . <u>Visiting many temples and shrines were exciting for me</u> .
		Q5	What do you want to do at high school?	I want to <u>study abroad</u> . I want to <u>study English in the United States</u> .
		Q6	What do you think you will be doing in ten years?	I think I will be <u>working at a travel company</u> . I will <u>travel all over the world</u> .

【図表2】「Q & A活動」における質問と応答の一覧

例えば、【図表2】の第2学年にある「将来の夢」をテーマとした場合には、Q1～Q6を生徒に示し、その内容を考えさせることで、生徒は「I want to be ~. I want to study ~.」など「I want to ~.」の形の英文だけでなく、既習の「I'm interested in ~.」や「I'm good at ~.」など様々な表現に繰り返し触れることができると考えた。また、「Q&A活動」においてこれらの質問と応答を用いたやり取りをすることで、生徒は相手の発話を通じて様々な考えに触れ、自分だけでは思い付かなかった内容に気づき、発信する内容（書きたい内容）を更に増やすことができると考えた。加えて、ペアでやり取りを行わせた後、以下のように教師が何人かの生徒に向かってやり取りで話した内容を問い掛けることで、それぞれのペアが話した内容を学級全体で共有できると考えた。

T: What is your partner interested in?

S: He is interested in music.

T: Oh, does he want to be a musician?

S: Yes. He wants to be a violinist in the future.

なお、P4「ア⑦」にあるとおり、「Q&A 活動」で生徒が実際に話した英文や、相手の発話の中で自分では思い付かなかった表現等については、後述の「英作文シート」(P7参照)に記録させ、生徒が実際に「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書く際に活用できるようにした。

ウ 「Q&A 活動」後のフィードバックの工夫

「Q&A 活動」を実施した後は、それぞれのペアでやり取りをした内容や多くの生徒に共通して見られた誤り、やり取りの中で生徒が「言いたかったけれど言えなかった表現」などについて、学級全体で共有するようなフィードバックを行うこととした。具体的には次のような例が考えられる。

○ 多くの生徒に共通して見られた誤りを共有する例

例えば、「将来の夢」についてのやり取りを行った際に、生徒が **want** の代わりに **went** (go の過去形) と発音してしまった場合には、「Q&A 活動」の後に発音どおりの **I went to be a nurse.** という英文を板書するなどして生徒に示し、誤りはどこか気付かせるようにする。

○ 「言いたかったけれど言えなかった表現」を共有する例

例えば、「頑張る」をそのまま英語で表現することができなかった場合には、既習事項でどのように表現することができるか学級全体に問いかけ、「たくさん練習する (practice a lot)」などで言い換えて表現できる例を生徒から引き出したり、教師が例示したりするようにする。

(2) 「英作文シート」を用いた指導(「書くこと」の取組)

本研究では、「書くこと」における課題「(1)既習事項を用いて正確に書くこと」及び「(3)『まとまりのある文章』を書くこと」を解決するため、以下のように考え、「書くこと」の取組として「英作文シート」を用いた指導を行った。「英作文シート」は、次ページの【図表3】にあるとおり、生徒が「①『Q&A 活動』で発話した英文等を記録する部分(STEP 1)」、「②『Q&A 活動』で表現できなかった内容等を記録する部分(IDEA BOX)」、「③文章構成を意識して書く部分(STEP 2, STEP 3)」の三つで構成されているワークシートである。

○ 「書くこと」における課題(1)の解決に向けて

生徒が書いた英文に対して、生徒同士のフィードバック、教師から生徒へのフィードバックを工夫することで、生徒が書く英文の正確さを高めることができる。

○ 「書くこと」における課題(3)の解決に向けて

「英作文シート」に「テーマに対するメインアイデア」、「理由や根拠、具体」、「自分の気持ちや考え」など、文章構成の特徴を意識させる指示や例示を記載し、生徒にそれらを踏まえて英文を書かせることで、生徒が「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書くことができるようになる。

英作文シート

今回のテーマ

将来の夢について語ろう

年 組 番 氏名

テーマ

将来の夢について語ろう

場面

自分の将来の夢(してみたいこと)について教室でスピーチする

伝える相手

ALTの先生、クラスの友達

STEP 1

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

IDEA BOX 使えそうな表現や「言いたかったけど言えなかった表現」

相手が使ったよい表現や、自分が「言いたかったけれど言えなかった表現」を記録させる。言えなかった表現は家庭学習で調べてくるなど指導し、表現できる内容を広げさせる。

年 組 番 氏名

STEP 2 テーマに対するメインアイデア

「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書けるように、文章構成を意識させながら記入させる。

理由や根拠、具体

自分の気持ちや考え

STEP 3 Title

STEP 2を基に記入させる。

年 組 番 氏名

テーマに対するメインアイデア

I want to be a doctor.

例文を入れておき、習熟の程度が遅い生徒には、記載された例文を参考にしよう伝える。

理由や根拠、具体

I want to help other people.

自分の気持ちや考え

I will study hard to be a doctor.

FINAL STEP Title

年 組 番 氏名

【図表3】「英作文シート」

ア 「英作文シート」を用いた活動の手順

- ① 「Q&A 活動」で実際に発話した英文等を STEP 1 に記録させる。
- ② 「Q&A 活動」の中で相手が発話したよい表現や、自分が「言いたかったけれど言えなかった表現」を IDEA BOX に記録させる。

- ③ 生徒に文章構成（「テーマに対するメインアイデア」、「理由や根拠、具体」、「自分の気持ちや考え」等）を意識させながら、「全体として一貫性のある 3 文以上の英文」を **STEP 2** に書かせる。
- ④ 生徒が **STEP 1** や **STEP 2** に書いた英文に対して、それぞれの英文を書いた直後に、ペアやグループでお互いにアドバイスをするなど、生徒同士のフィードバックを行わせる。その際、英文の正確さ（語彙や文法等の正確さ）や文章構成（全体として一貫性のある文章になっているか）などについて互いにアドバイスをするように促す。
- ⑤ 生徒同士のフィードバックの状況を踏まえ、全体に共通して見られる語彙や文法等の誤りや、生徒同士で行っていた良いアドバイス等については、教師が口頭での説明や板書等を通じてフィードバックを行い、学級全体で共有する。
- ⑥ フィードバックを踏まえ、**STEP 3** に「全体として一貫性のある 3 文以上の英文」を記入させる。
- ⑦ 「英作文シート」を回収するなどして、生徒が **STEP 3** に書いた英文に対する教師のフィードバックを行う。
- ⑧ 教師のフィードバックを基にして、最終的な「全体として一貫性のある 3 文以上の英文」を **FINAL STEP** に記入させる。

イ 「英作文シート」における工夫

- 前ページの「ア①、②」にあるように、「英作文シート」を「**Q&A 活動**」と関連付けた。具体的には、「**Q&A 活動**」を通じて生徒がもつことのできた「発信する内容（自分が発話した内容や相手のよい発言、「言いたかったけれど言えなかった表現」等）」を記録させることで、「まとまりのある文章」を書くための材料を集められるようにした。
- 上記「ア③」にあるように、「テーマに対するメインアイデア」、「理由や根拠、具体」、「自分の気持ちや考え」といった項目を「英作文シート」に明示し、生徒に文章構成について常に意識させることで、生徒が全体として一貫性のある文章を書きやすくなるようにした。

ウ 「英作文シート」におけるフィードバックの工夫


生徒が「英作文シート」に書いた英文に対するフィードバックとして、文章構成に関するフィードバックと、英文の正確さに関するフィードバックを行わせることとした。フィードバックにおいては、ペアやグループなど、生徒同士で行うものを重視し、生徒自身が誤りなどに気付くことを促すようにした。

- 文章構成に関するフィードバックは、生徒が文章構成を意識して書いた **STEP 2** の「全体として一貫性のある 3 文以上の英文」に対して行わせるようにする。**STEP 2** に示した文章構成に関する項目名（「テーマに対するメインアイデア」、「理由や根拠、具体」、「自分の気持ちや考え」）に基づいた記述内容になっているか、互いに確認するように促す。

- 英文の正確さに関するフィードバックは、主に STEP 1 に書いた英文に対して生徒同士で行わせるようにする。その際、以下の [修正記号] 等を活用させて、生徒自身が英文の誤り等に気付くことを促す。

[修正記号の例]

「WW (wrong word)」 → 文法・語彙の誤りを指摘 (誤っている部分の下に記す。)

「  」 → 語順の誤りを指摘 (語順の誤っている語句の下に記す。)

「 ^ 」 → 語の不足を指摘 (抜けている箇所記す。)

「 / 」 → 不要な語の挿入を指摘 (不要な語に重ねて記す。)

- 前ページの「ア⑦」にあるように、最終的に教師がフィードバックを行うことで、生徒が書いた「まとまりのある文章」の正確さを高めるようにする。この際も、上記 [修正記号] 等を用いるなどして、生徒自身に誤りに気付かせることを意識して指導する。

2 検証授業

「1 授業実践内容」に示した「Q&A 活動」と「英作文シート」を用いた指導の効果について検証するため、本部会の部員の所属校において授業実践を行うとともに、2回の検証授業を実施した。

3 成果と課題の整理

「Q&A 活動」と「英作文シート」を用いた指導が、「書くこと」における三つの課題、「(1)既習事項を用いて正確に書くこと」、「(2)発信する内容をもつこと」、「(3)『まとまりのある文章』を書くこと」の解決につながっているか、本部会の部員の所属校における授業実践と2回の検証授業の結果を踏まえ、取組の成果と課題を整理した。

Ⅲ 研究構想図

【生徒の実態】

4 技能、特に発信能力（話す・書く）に課題

- ➡ 「話すこと」については、東京都教育研究員中学校外国語部会の研究や東京都教育委員会主催の「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」等を通じて、生徒の「話すこと」の力を高めるための授業改善方法が示されてきた。
- ➡ 「書くこと」については、課題として

- 「書くこと」における課題
- (1) 既習事項を用いて正確に書くこと
 - (2) 発信する内容をもつこと
 - (3) 「まとまりのある文章」を書くこと

があるものの、「話すこと」に比べて実践事例の提示が少なく、授業改善方法を研究するなど、課題解決に向けた実践を行っていく必要がある。

【研究主題】

「話すこと」の活動を通して「書くこと」の力を高める指導の工夫
～自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現できる生徒の育成を目指して～

【研究の仮説】

「話すこと」の活動を通じて生徒に発信する内容をもたせるとともに、「書くこと」の活動を通じて「まとまりのある文章」を書くための文章構成を指導すれば、「既習事項を活用して、自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現することのできる生徒」を育成することができるだろう。

【目指す生徒像】 既習事項を活用して、自分の考えや気持ちを
まとまりのある文章で表現することのできる生徒

「書くこと」における課題

「(2) 発信する内容をもつこと」の解決に向けて
「Q&A活動」（「話すこと」の取組）

様々な英文（質問と応答）を生徒にモデルとして示したり、それらの英文を用いた生徒同士のやり取りを通じてお互いの考えに触れさせたりすることで、テーマに関する考えを広げさせ、生徒に発信する内容（書きたい内容）をもたせる。

「書くこと」における課題

「(3) 『まとまりのある文章』を書くこと」の
解決に向けて

「英作文シート」（「書くこと」の取組）

「英作文シート」に「テーマに対するメインアイデア」、「理由や根拠、具体」、「自分の気持ちや考え」など、文章構成の特徴を意識させる指示や例示を記載し、生徒にそれらを踏まえて英文を書かせることで、生徒が「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書くことができるようにする。

「書くこと」における課題

「(1) 既習事項を用いて正確に書くこと」の解決に向けて

「Q&A活動」及び「英作文シート」を用いた指導の後のフィードバック

- ・ ワークシートに質問と応答の一覧を記載するなどして生徒にモデルとなる英文を繰り返しインプットするとともに、教師が「Q&A活動」後のフィードバックを工夫することで、生徒が表現する英文の正確さを高める。
- ・ 生徒が書いた英文に対して、生徒同士のフィードバック、教師から生徒へのフィードバックを工夫することで、生徒が書く英文の正確さを高める。

IV 検証授業

2回の検証授業では、「Q&A 活動」と「英作文シート」を用いた指導が、「書くこと」における課題である「(1)既習事項を用いて正確に書くこと」、「(2)発信する内容をもつこと」、「(3)『まとまりのある文章』を書くこと」の解決につながっているかを検証した。

1 検証授業①

(1) 検証授業①で扱った単元の概要

自分の「将来の夢」について文章構成を意識して「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書き、その内容を基に口頭で発表する単元（第2学年）

(2) 検証授業①で扱った「Q&A 活動」及び「英作文シート」の内容

○ 「Q&A 活動」の内容

- ・ 「将来の夢」や「やりたいこと」に関して、P5【図表2】の「第2学年」に示した六つの質問と応答を記載したワークシートを用いて、1分間のやり取りを行わせた。
- ・ 生徒同士のやり取りを行わせる前には、以下のような教師と生徒によるやり取りを通じて、やり取りのモデルを示した。

T: What do you want to be or want to do in the future?

S: I want to be a nursery school teacher.

T: Oh, you want to be a nursery school teacher. Why?

S: Because I like to take care of children. What do you want to do in the future?

T: I want to travel around the world.

- ・ 「Q&A 活動」でやり取りを行った後には、生徒自身が発話した英文（主に応答として発話した英文）のうち「自分が最も内容を豊かに話せたと思う1文」を「英作文シート」のSTEP1に記入させた。

○ 「英作文シート」を用いた指導の内容

- ・ P7【図表3】に示した「将来の夢について語ろう」の「英作文シート」を使用して、「将来の夢」について「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書かせる活動を行った。
- ・ 「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書かせる際には、前時までに生徒が「英作文シート」のSTEP1に記録した英文等を活用させた。
- ・ 生徒に文章構成を意識させるため、文章構成のパターン例として「【例①】1文目：テーマに対するメインアイデア、2文目：理由や根拠、具体例など、3文目：自分の考えや気持ち」や「【例②】1文目：事実、2文目：事実、3文目：自分の考えや気持ち」などを示し、具体的な英文として「I want to be an illustrator. I like to draw pictures, and I want to draw pictures for picture books in the future. I will study hard for that.」などをモデル文として提示した。
- ・ 「英作文シート」に記入した英文についてペアで相互にフィードバックを行う際には、P9に示した[修正記号]等を使用させ、生徒自身が英文の誤りに気付けるようにした。

(3) 検証授業①の成果 (◎) と課題 (▲)

- 「書くこと」における課題「(1)既習事項を用いて正確に書くこと」について
 - ◎ [修正記号] を使用することで、生徒自身が英文を正確に書くための視点をもつことにつながり、自分の誤りに気付く生徒が増えた。
- 「書くこと」における課題「(2)発信する内容をもつこと」について
 - ◎ 「Q&A 活動」を通じてテーマ「将来の夢」に関して考えることで、「英作文シート」に英文を書く際に、発信する内容（書きたい内容）をもつことができた。
 - ▲ 「Q&A 活動」での即興のやり取りでは十分に考えを広げたり深めたりできず、「英作文シート」の STEP 1 に記録した英文等では、「まとまりのある文章」を書く際に自分の考えや気持ちを十分に表現できないと感じる生徒が見られた。「Q&A 活動」を通じて、「まとまりのある文章」を書くための内容を集めている、という意識をもたせる指導が十分ではなかったと考えられる。
- 「書くこと」における課題「(3)『まとまりのある文章』を書くこと」について
 - ◎ 文章構成について指導することで、文章構成の型を意識して書く生徒が増えた。
- 検証授業①を実施したことで明らかになったその他の効果
 - ◎ 「Q&A 活動」で実際に発話した英文等を「英作文シート」に記録し、それらを「まとまりのある文章」を書く際の材料として使用したことで、生徒にとっては十分に準備をした上で「書くこと」の活動に取り組むこととなり、苦手な生徒にとっても「書くこと」の活動に取り組みやすくなっている様子が伺えた。

2 検証授業②

(1) 検証授業②で扱った単元の概要

複数形等の文法事項について学習するとともに、自分のことを紹介する3文以上の「まとまりのある文章」を書く単元（第1学年）

(2) 検証授業②で扱った「Q&A 活動」及び「英作文シート」の内容

- 「Q&A 活動」の内容
 - ・ 本単元（10時間扱い）では、第1学年であることなど生徒の実態を踏まえ、帯活動としての全9回の「Q&A 活動」を、それぞれ3回ずつの三つの段階に分けて実施した。
 - 第1回～第3回：質問と応答の英文の口頭練習など
 - 第4回～第6回：生徒同士によるやり取りの活動
 - 第7回～第9回：「Q&A 活動」で学習した表現を活用させる活動
 - 「Q&A 活動」で学習した表現を活用させる活動では、複数形の文法事項を理解させるために、複数形を用いた英文を使用するの場面を生徒に提示し、そこで使用する表現を想起させてからやり取りをさせた。例えば、「『相手がカバンの中に何をもっているか知りたい』という場面であればどのような質問をするか」と生徒に問い掛け、「What do you have in your bag?」という質問を生徒から引き出した上で、やり取りを開始させた。
 - ・ 本単元の「Q&A 活動」で実際に生徒が使用した英文は、「Do you have a bag? - Yes, I do. / No, I don't.」「Do you have five pens? - Yes, I do. / No, I don't.」など、単数や

複数のものについて Yes / No で答えるもの、「What do you have in your bag? - I have a smart phone, two books and a handkerchief.」など、何を持っているか尋ねるもの、「How many pens do you have? - I have ten pens.」など、数を尋ねるものである。

- 「英作文シート」を用いた指導の内容
 - ・ 「Q&A 活動」の実施後には、複数形を用いた英文のうち自己紹介に使えるもの(I have three PCs in my house. I have many CDs. I have ten pens in my pencase.等)を「英作文シート」に記録させ、その後、内容の正確さに関するフィードバックを生徒同士で行わせた。
 - ・ 教師から生徒へのフィードバックとして、検証授業②の前時までには生徒が STEP 1 に記入した英文に多く見られた誤りを基に、英文の誤りを見付けるクイズを作成した。クイズとして生徒に誤りを含んだ英文を提示し、誤りに気付かせる活動を行った。この活動で、生徒に実際に提示した英文は以下の3文である。
 - ① I am have a wallet. ② I have twelve pen. ③ I'm 300 yen.

(3) 検証授業②の成果 (◎) と課題 (▲)

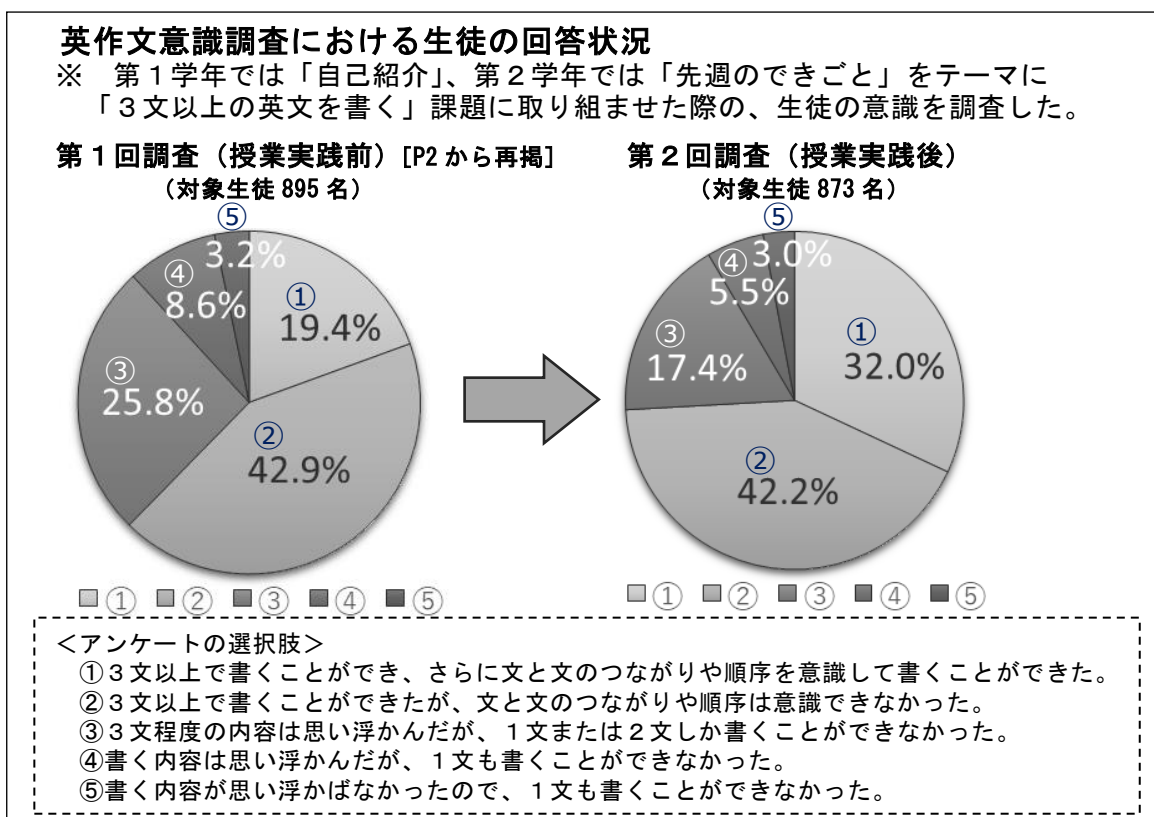
- 「書くこと」における課題「(1)既習事項を用いて正確に書くこと」について
 - ◎ 「Q&A 活動」で学習した表現を活用させる活動を通じて、生徒に既習事項を活用させることで、多くの生徒が「英作文シート」にそれらの英文を書くことができた。
 - ◎ 「英作文シート」に記録された英文に共通して見られた誤りをクイズ形式で生徒に示すことで、生徒自身に、英文の誤りについての気付きを促すことができた。
 - ▲ 「Q&A 活動」のやり取りは順調に行えた生徒でも、英文を書く際には、その正確さに課題の残る生徒が多数見られた。英文の正確さを高めるためのフィードバック方法を工夫する必要があることが分かった。
- 「書くこと」における課題「(2)発信する内容をもつこと」について
 - ▲ 「Q&A 活動」で扱った質問と応答の多くが複数形に関するものであったため、発信する内容をもつことが難しかった。「Q&A 活動」を、単元目標である「自分のことを紹介する」ための「まとまりのある文章」を書くことに、十分つなげることができなかった。
- 「書くこと」における課題「(3)『まとまりのある文章』を書くこと」について
 - ▲ 本単元で扱う内容(複数形等)だけを材料として「まとまりのある文章」を書くことは難しかった。「まとまりのある文章」を書くことを単元の目標とする際には、その単元で扱う話題や文法事項等を十分に踏まえる必要がある。
- 検証授業②を実施したことで明らかになったその他の効果
 - ◎ 「Q&A 活動」と「英作文シート」という「話すこと」と「書くこと」の活動を関連付けることで、「書くこと」の活動に取り組みやすくなっている様子が伺えた。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 英作文意識調査の結果から「書くこと」における課題(1)、(2)、(3)の検証

本部会の部員全員が、それぞれの所属校において「Q&A 活動」と「英作文シート」を用いた授業を実践した。研究の成果を検証するため、「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書くことに関する生徒の意識調査を、研究による取組を行う前（授業実践前）と取組を行った後（授業実践後）の2回行い、結果を比較した。



【図表4】英作文意識調査における生徒の回答状況（「授業実践前」及び「授業実践後」）

調査結果から、以下の内容が明らかになった。

- 授業実践前の時点で「3文以上の文章で書くことができなかった生徒」の割合（③＋④＋⑤）は37.6%であったが、授業実践後の時点ではこの割合が25.9%まで減少した。このことから、発信する内容をもつとともに、「既習事項を活用して書くこと」のできる生徒の数が増加したと考えられる。
 - 授業実践前から授業実践後にかけて、①と回答した生徒の割合が12.6ポイント増加した。このことから、文章構成を意識して『全体として一貫性のある3文以上の英文』を書くことのできる生徒の数が増加したと考えられる。
- (2) 生徒が書いた「全体として一貫性のある3文以上の英文」の採点結果から

（「書くこと」における課題(1)、(3)の検証）

上記(1)の「英作文意識調査」に際して生徒に書かせた「全体として一貫性のある3文以上の英文」を次ページの【図表5】に示す評価基準表に従って採点し、授業実践前と授業実践後の点数の変化を分析した。

観点	3点	2点	1点
①文の まとまり	3文以上の英文で、まとまりがある。	3文以上の英文だが、まとまりに欠ける。または、2文の英文で、前後の意味のつながりがある。	3文以上の英文だが、まとまりがない。または、2文の英文だが、前後の意味につながりがない。
②正確さ (文法・表記)	書かれた英文全てに関して、文法・表記のミス(軽微なミスを除く。)がない。	書かれた英文全てに関して、文法・表記のミス(軽微なミスを除く。)が1か所である。	書かれた英文全てに関して、文法・表記のミス(軽微なミスを除く。)が3か所以内である。

※ P3に示した「全体として一貫性のある3文以上の英文」の例(I went to an amusement park with my friends last weekend. We rode a roller coaster many times. I enjoyed my weekend very much.)が、各観点で3点となるように評価基準表を作成した。

【図表5】「全体として一貫性のある3文以上の英文」を採点するための評価基準表

「全体として一貫性のある3文以上の英文」の分析対象としたのは、本部会の部員の所属校各校の合計60名の生徒である。各校で分析対象に偏りが出ないように、習熟の程度の早い生徒から順にA、B、C層に分けた場合のA層から2名、B層から2名、C層から2名の計6名を抽出した。

これら60名の生徒の「全体として一貫性のある3文以上の英文」を分析し、評価基準表の観点である、①文のまとまり、②正確さ(文法・表記)、ごとに点数の変化を集計したところ、結果は次の【図表6】のとおりであった。

第1回調査(授業実践前)					第2回調査(授業実践後)				
観点	A層生徒 平均	B層生徒 平均	C層生徒 平均	全体 平均	観点	A層生徒 平均	B層生徒 平均	C層生徒 平均	全体 平均
①文のまとまり	2.55	2.15	0.80	1.83	①文のまとまり	2.80	2.50	1.63	2.32
②正確さ (文法・表記)	2.50	1.75	1.30	1.85	②正確さ (文法・表記)	2.90	2.45	1.47	2.30

【図表6】「まとまりのある文章」の採点結果における点数の推移(各観点の満点は3点)

【図表6】の「第2回調査(授業実践後)」の網掛け部分にあるとおり、第1回調査から第2回調査にかけて、B層の生徒において「正確さ(文法・表記)」の数値が0.7ポイント、全体として0.45ポイント上昇している。このことから、本研究の実践が、「既習事項を用いて正確に書く」力の向上に寄与したと考えられる。また、C層の生徒において「文のまとまり」の数値が0.83ポイント、全体として0.49ポイント上昇していることから、「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書くことのできる生徒の育成にもつながったと考えられる。

(3) 生徒が書いた「全体として一貫性のある3文以上の英文」のサンプルから

(「書くこと」における課題(2)、(3)の検証)

次ページ【図表7】にあるとおり、生徒が書いた「全体として一貫性のある3文以上の英文」のサンプルを調査した。その結果、例えば、生徒Aは「和歌山で行ったことの列挙」から「参加した祭りで自分が行ったこととその感想」へ、生徒Cは「同じような文型の繰り返しと事実の列挙」から「新宿で行ったこととその感想」へと内容が変化している。また、生徒Bについても「箱根で宿題をした。」という内容から「学校で一生懸命勉強をした。」というより一貫性の強い内容へと変化している。このことから、生徒が発信する内容をもてるようになり、授業実践前の課題であった「相互に関連のない英

文を羅列してしまう。」という状況が改善されているとともに、「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書けるようになってきていると考えられる。

	【先週のできごと】(授業実践前)	【先週のできごと】(授業実践後)
生徒 A (A層)	My family and I went to grandfather's house in wakayama. I studied English, art, math, science. My family and I went to museam in wakayama. I swam in tha sea in wakayama. I wentto wakayama festival. I ate wotermeron in grandfathers house.	I took part in a festival last week. I played the drums them. I'm on the brass band team. I like music and playing the drums. I enjoy playing the drums. Playing the drums is fun.
生徒 B (B層)	I went to Hakone last week. And I did my homework. I reary enjoied it.	I went to school last week. I studied math, English and Japanese. I like study, because teachers is very interesting. I study veary hard, because I have a test. I think study is very interesting.
生徒 C (C層)	I did hard homework. I went to Ikebukuro. I went to Akihabara. I bought comiks. I read comics.	I went to Shinjuku. I watched (映画のタイトル) in Shinjuku. It is very interesting.

【図表7】生徒が書いた「まとまりのある文章」のサンプル(生徒の誤りもそのまま記載している。)

(4) 「書くこと」における課題の解決以外の効果

授業実践を通じて、生徒が英文を書くことに対して取り組みやすくなっている様子が見られた。そこで、本研究の「書くこと」における課題の解決以外の効果を把握するため、本研究の取組の実施後(授業実践後)に生徒へのアンケート調査(対象生徒889名)を実施した。その結果、『話すこと』の活動(「Q&A活動」)を行うことによって、『話題についてまとまりのある文章を書く活動』に取り組みやすくなったか。」という質問に対し、「とてもそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた肯定的な回答が78.9%であった。このことから、「Q&A活動」と「英作文シート」を用いた指導を関連付けて実施することで、生徒が「書くこと」の活動に取り組みやすくなっていると考えられる。

以上のことから、本研究の取組が「既習事項を活用して、自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現することのできる生徒」の育成に一定の成果を上げたと考えられる。

2 研究の課題

本研究では「全体として一貫性のある3文以上の英文」を取り扱った。こうした取組、実践を積み重ねることが、新学習指導要領が示す「まとまりのある文章」を書くことにつながると考えたからである。今後、新学習指導要領で求められている「まとまりのある文章」を生徒が正確に書けるようになるためには、本研究における取組を継続するとともに、本研究では扱わなかった接続詞の指導等を通じて文と文のつながりを意識させる指導の工夫等が必要であると考えられる。また、P14【図表4】における①～④の生徒に対しては本研究の効果が見られたが、⑤の生徒(「書く内容が思い浮かばなかったため、1文も書くことができなかった」生徒)については、3.2%から3.0%への減少にとどまり、ほとんど効果が見られなかった。これらの生徒に対しては、生徒の実態に合わせた指導を更に工夫していくなど工夫が求められる。今後も、生徒の実態に合わせながら、生徒が書く英文の「正確さ」と「まとまり」を高めるための指導の工夫を行っていくことが課題である。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

中学校・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
杉 並 区 立 和 泉 中 学 校	教 諭	工 藤 信 輝
荒 川 区 立 第 三 中 学 校	教 諭	能 美 真 弓
板 橋 区 立 志 村 第 三 中 学 校	主任教諭	藤 野 康 明
板 橋 区 立 高 島 第 二 中 学 校	主任教諭	永 原 佳 代 子
板 橋 区 立 高 島 第 三 中 学 校	主任教諭	◎田 平 真 季
江 戸 川 区 立 松 江 第 四 中 学 校	主任教諭	伊 東 卓 思
八 王 子 市 立 鐘 水 中 学 校	主幹教諭	大 塚 耕
町 田 市 立 薬 師 中 学 校	教 諭	直 江 朋 子
東 大 和 市 立 第 五 中 学 校	教 諭	田 中 翼
西 東 京 市 立 柳 沢 中 学 校	主任教諭	トレンツ めぐみ

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 早川 裕之

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
中学校・外国語

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849